

## はじめに

令和3年4月、市民憲章を基本理念とし、「新たな力とともに創る 笑顔と元気のみなとまち へきなん」を将来像に掲げた『第6次碧南市総合計画』がスタートしました。

この将来像にある「元気」は、活力や健康を象徴しています。健やかな心や体でいることができれば、力がみなぎり、何事にも前向きに取り組むことができます。市民が元気であれば、まち全体に元気がひろがり、活気のあるまちとなります。

市民が元気であるために、計画の「健康」の分野においては、各ライフステージにおいて健康増進に向けた取り組みを進め、すべての市民が健康でいきいきとした生涯を過ごすことができる環境をめざすこととしています。

このために、保健センターでは、母子保健事業、予防接種事業、成人保健事業、介護予防事業、歯科保健事業等の事業により、妊娠、出産期から高齢期までの幅広い世代における市民の健康管理・健康づくりを支援しています。

また、本市においては昭和42年に発足しました、医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護師会、保健所、各種団体、市民及び行政が一体となった『碧南市健康を守る会』による、いわゆる市民ぐるみの健康づくりへの取り組みも重要な役割を担っています。

今後も「人生100年時代」を見据えて、市民が笑顔で元気に安心して暮らせるまちをめざし、保健、医療、福祉、教育等関係機関との連携を図り、市民のみなさまのご理解、ご協力、ご参加をいただき、保健事業の一層の推進に努めてまいります。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の急速な感染拡大を受けて緊急事態宣言が発出されたことに始まり、その後も感染が一定の収束と拡大を繰り返したことで、社会全体が大きな影響を受け続けた1年となりました。そのような中でも、本市の保健事業が継続実施できましたことに感謝を申し上げるとともに、本年報を今後の保健事業の参考として活用していただければ幸いと存じます。

令和3年9月

碧南市長 補 亘田 政信

## 緒 言

昨年度の年報にも少し言及しましたが、令和2年1月16日わが国で第一号の新型コロナウイルス感染患者が確定した後、このウイルス感染は瞬く間にパンデミックに至りました。そのため年度初頭の4月7日に発令された緊急事態宣言を皮切りに、1年間当保健センター事業のほとんどが中止または縮小せざるを得ない状況となりました。このような1年はセンターが開設されて以来、初めてのことでありました。

それ故、今回の緒言ではセンター事業について色々述べることはせずに、この異常な1年についても触れさせていただきます。

上述の4月7日夜、健康推進員の皆さんには各地区より希望された代表者の方に、私から新型コロナウイルス感染症について講話させてもらい、1年間の活動や予定については事務局からの説明がありました。その結果、各地区の推進員皆さんの判断でこの1年の活動をどうするか決めていただきました。そして、このコロナ禍での活動について熱心に話し合い、各地区の事業を無事終わらされての苦労話や感想について、本年3月の活動報告会の場で色々と承りました。

さて、ここ数年毎年この紙面を通じてお伝えしていることですが、碧南市における健康問題は、何と言ってもメタボ予備群やメタボリック症候群の罹患率が高いことです。これは10年以上前に保健所の会議で当市のヘモグロビンA1cが周辺他市に比べて明らかに高いことに端を発しています。また高齢者を含み肺癌死亡者数も少なくなく、その要因は明らかに男性の喫煙率が県内有数の高い市であることに関連すると言えます。そのためCOPD罹患の男性もおそらく高いはずであり、そればかりではなく間接喫煙による影響も加味して、男女のがん罹患率や小児のメタボにも影響していることが推測されています。したがって、今後ますます特定健診のみならず、がん検診受診率の向上やその精度管理の重要性が問われるものと存じます。

保健センター2階で行われている人間ドックは数年前から医師会立臨床検査センターに委託されていますが、昨年度は4月～6月にかけて緊急事態宣言の間中止となり、その後も人数制限して実施しました。さらには毎年6月から開始する特定健診も7月からと1か月遅れてはじめるを得なくなり、例年になく受診率が低下しました。その他乳幼児健診などの実施に際しては、常に三密を避けて手指のアルコール消毒をお願いしたり、保護者の皆さんにはマスクの着用を徹底していただくなど各種規制を強いられました。

新型コロナウイルス感染症は想定をはるかに上回る速度で世界中に蔓延し、変異を繰り返し、一旦治まりかけても社会生活が少しでも緩和されると、すぐに増多の波が来るといった、

非常に厄介な感染症です。また、基礎疾患のあるひとや高齢者は感染すると重症化、あるいは最悪の場合死亡する率も高い一方、若い年代ほど重症化しにくい特徴もあるため、不顕性感染者からの感染によるクラスターの発生も考慮した上で常に対処する必要があります。この春からワクチン接種がやっと始まったものの、まだまだ終息の目途が立たぬ中、センター職員（健康課）の皆さんのご苦勞は大変であったことと思います。さらに、このコロナ禍での1年をまとめるにあたり、まさに今ワクチン接種事業の真ただ中で忙殺される毎日、本書の発刊にご尽力いただいた職員ご一同に熱く深謝申し上げるとともに、1日も早いこの感染症の終息を祈ります。

令和3年9月

碧南市健康を守る会 会長 山中 寛紀